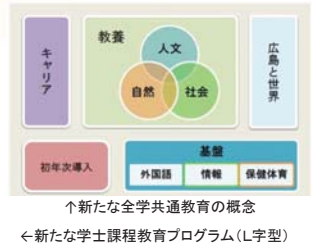
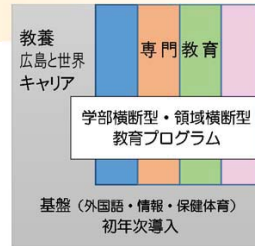


行動型・参加型学修を基盤とするAL推進の取組

県立広島大学 総合教育センター 五條 小枝子
本部経営企画室 川口 博之

1. 共通教育の改革とAL実践科目の開設

- ◆ 県立広島大学について
 - 2005年に3つの県立大学が統合し開学(3キャンパス4学部11学科)
 - 「地域に根ざした、県民に信頼される大学」を目指す
- ◆ 全学共通教育の改革(～H27年度)
 - 「授業の満足度は高いが、授業外学修時間が伸びず、主体的学びが引き出せていない」
 - 27年度から新たな全学共通教育を導入…「L字型モデル」
 - 学士課程全体を「教育プログラム」と捉え、体系的なカリキュラムを構築
 - 「専門教育と並び立つ教養教育」という理念
- ◆ 科目群「広島と世界」を新設
 - 「地域に軸足を置き、世界を視野に活躍できる人材」の育成を目指す科目を開設(右表)
 - 広島県をフィールドとするアクティブ・ラーニング実践科目を、共通教育の体系に組み込む



「広島と世界」開講科目	
県大生として学ぶ広島と世界	地域の理解
地域情報発信論	ボランティア活動
異文化としての日本	留学生と学ぶ広島
海外研修Ⅰ	海外研修Ⅱ

2. 行動型・参加型学修の推進

- ◆ 県立広島大学型アクティブラーニング(Campus Linkage Active Learning : CLAL)
 - 平成26年度「大学教育再生加速プログラム」(テーマⅠ:アクティブ・ラーニング)に採択
 - 行動型学修・参加型学修を軸とする「県立広島大学型アクティブ・ラーニング」を全学推進
 - ◆ 行動型ALの実践支援…「行動型学修に参加する学生への経費助成」事業
 - ① キャンパス移動に係る移動補助 ⇒ キャンパスを越えた学生の交流、合同成果発表会の実施
 - ② 学外実習へ出向く学生への移動補助 ⇒ フィールドワークや実地踏査等の体験学修を推進
- 学士課程教育プログラムの改革 + AP事業によるAL手法導入加速 = 主体的な学びを引き出す「広島と世界」等 「行動型・参加型学修」 能動的な授業の実践!

県立広島大学型アクティブ・ラーニング
Campus Linkage Active Learning : CLAL

行動型学修
フィールドワーク、現地体験、実地踏査等

参加型学修
グループワーク、ディスカッション、イベント、PBL、TBL、反転授業等

課題解決型学修、対話を重視した学修の積極的導入

知的能动性を揺り動かし、深い学びを喚起する

自ら考え、課題に取り組み、解決に向けて行動する

生涯にわたって学び続けるアクティブ・ラーナーの育成

3. 「広島と世界」におけるCLALの展開

- ◆ 行動型学修を通じた、学外で現地体験(フィールドワーク、実地調査)
- ◆ 参加型学修を通じた、経験の共有と内省(ディスカッション、グループワーク)
- ◆ 成果発表を通じた、学修内容の整理(合同発表会、プレゼンテーション)

経験を学び
に変える
学修プロセス

『地域の理解』

➢ フィールドワークを核としたプログラム(フィールドワークと連動した講義内容)

➢ 感想カード記入時間(毎回10分)の設定

配当年度: 1年	授業実施内容
第1回	イントロダクション
第2回	広島の特産
第3回	中国山地の近代たたら製鉄
第4回	広島山地の高齢化の課題に対応する地域住民活動
第5回	広島から世界へ～量は道具なり～
第6回	広島県の農業と中産層地域
第7回	広島県の産産の歴史
第8回	美学と地域の学問: 庄原英学社と倉田百三
第9回	ヒロシマを考える
第10回	地域を暮らしを豊かにしたい! ～NPOの視点から～
第11回	平和公園の成り立ち・原爆ドーム100年
第12回	フィールドワーク総括
第13回	合同発表会に向けて
第14回	合同発表会(広島キャンパスで開催)
第15回	

安芸高田市へのフィールドワークにおける神楽の体験

『地域情報発信論』

➢ 中国新聞の寄附講座/単位互換科目

➢ 3キャンパス+他大学学生のグループ編成

➢ 地域の情報を集め、発信する力を修得

配当年度: 2年(集中講義)	授業実施内容
第1回	記者の記事
第2回	かき船転航問題の経緯と今
第3回	かき船転航問題についてどう考えるか?
第4回	貸空の議稿の整理と問題の抽出
第5回	平和公園一等の取材計画を練る
第6回	取材実習(1)写真撮影指導を含む
第7回	取材実習(2)平和公園一帯の歴史と今を学ぶ
第8回	模範記者会見: 学生の質問に記者が答える
第9回	記事執筆レポート: 「かき船転航問題」について私はこう考える
第10回	グループディベート: グループの見解をまとめ、発表
第11回	平和公園の成り立ち・原爆ドーム100年
第12回	グループワーク: 平和公園の整備イメージを見出し化
第13回	グループワーク: イメージ図作成
第14回	グループワーク: ポスター作成
第15回	プレゼンテーション: 提案・質疑応答・合評

サテライトキャンパスひろしまにおける参加型学修

『留学生と学ぶ広島』

➢ 留学生との交流・フィールドワーク・議論

➢ 興味に応じたフィールドワーク先選択

➢ 事前・事後レポートによる知識の定着

配当年度: 1・2年	授業実施内容
第1回	授業の趣旨と概要の理解
第2回	留学生のスピーチ: 学生同士の意見交換
第3回	グループ活動: 事前調査結果の共有
第4回	広島スタディツアー(弥山登山)参加
第5回	グループ活動: ディスカッション
第6回	レポート発表会(弥山登山)
第7回	グループ活動: フィールドワーク打ち合わせ
第8回	レポート発表会(グループ別フィールドワーク)
第9回	ワーク先: 安芸高田市、尾道市、竹原市、庄原市、広島市
第10回	グループ活動: 事前調査結果の共有
第11回	広島スタディツアー(平田観光農園、奥田元家・小由女美術館)参加
第12回	グループ活動: ディスカッション
第13回	レポート発表会(平田観光農園、奥田元家・小由女)
第14回	合同発表会
第15回	

廿日市市・宮島でのフィールドワークの様子

フィールドワーク先:
● 地域の理解
● 地域情報発信論
● 留学生と学ぶ広島
● 異文化としての日本

地域に軸足を置き
世界を視野に活躍
できる人材の育成

4. 成果と課題

- 全学共通教育に「広島と世界」群を配置したことで、キャンパスを越えた学修を促進
- 実践支援制度による、体験学修や合同発表会の積極実施
- 体験学修を通じた、新たな発見や広い視野の獲得
- 学生が「自ら発見する喜び」を感じることに伴い、深い学びへのいざない
- 【課題】
- 他の共通/専門科目へのALの波及 ⇒ カリキュラムへの体系的な組み込み
 - 学生への意識付け ⇒ 授業の目標や設計に対する、理解不足の解消
 - 担当教員の拡充や学修環境整備 ⇒ グループ活動時のきめ細かな支援の実現

『異文化としての日本』

➢ 留学生と対面してのディスカッション

➢ 非母国語でのプレゼンテーション

➢ 異文化に触れ、日本を捉え直す

配当年度: 2年	授業実施内容
第1回	授業の趣旨と概要の理解
第2回	留学生との意見交換
第3回	留学生との意見交換
第4回	先生との講話と質疑応答を通して、各自の問いを立てる
第5回	各自の問いと調査結果に基づき、グループディスカッション
第6回	グループディスカッションの成果発表
第7回	先生との講話と質疑応答を通して、各自の問いを立てる
第8回	各自の問いと調査結果に基づき、グループディスカッション
第9回	グループディスカッションの成果発表
第10回	グループディスカッションの成果発表
第11回	各自の問いに基づいて、グループディスカッション
第12回	情報交換会(於: 広島キャンパス)
第13回	グループディスカッションの成果発表(留学生による発表)
第14回	母国語以外の言語によるプレゼンテーション
第15回	